

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様に於かれましては、第7波のコロナ等も寄せ付けず恙なくお過ごしのことと拝察し、暑中お見舞いを申し上げます。

今年は例年より随分早い梅雨明け宣言に戸惑い、いきなりの酷暑に晒されたのも束の間、「戻り梅雨？」なる不順な悪天候の中で参議院選挙に突入し、投票2日前の金曜日に安倍元総理が兇弾に斃れると云う悲報が、宮崎県偕行会総会の真最中に飛び込みました。

折しも石原宮崎地本部長の防衛講話最中の事で、講話中断のお許しを頂き「安倍首相暗殺？」の一報を参加者の皆様にお伝えしたところ、会場内にどよめきが走った次第です。

その後の顛末については皆様ご存じの通りですが、犯人及び宗教団体との関わりなど、その動機を含めて未だ真相は闇の中であり、今回のVIP警備の再検証も併せて警察には事実の追求と公表を、厳しくお願いせねばなりません。

さて先月お話しをしましたが、3年ぶりに横須賀市の武山駐屯地にある高等工科大学校主催の「安全の日行事」に参列し、本当に久しぶりの自衛隊部内行事に参加して来ました。

現在は68期生徒が入校し、約1000名の学舎は「高等工科大学校」と名称を変えましたが、13年前の55期生徒までは「少年工科大学校」と呼ばれ、「少年自衛隊」の愛称でご記憶の方も多しと存じます。

中学生時代の私はこの学校の存在を知らずに、何の躊躇いもなく今夏甲子園に出場する「富島高校」に進学したのですが、当然同学年にいるはずのY君が入学しておらず、その消息を友人に尋ねたところ、何でも「少年自衛隊」に入隊したらしいと仄聞し、「しまった、その手があったか」と、当時何故か一人出遅れた感と悔しい気持ちに駆られました。

私もY君と一緒に「少年自衛隊」の門を潜っていたならば、16期生徒から恐らく一自衛官として職責を全うしたものと考えますが、今回の「安全の日行事」は私の4期先輩の12期生徒が戦闘渡河訓練中に13名殉職すると云う、陸海空自衛隊68年の永い歴史の中でも最悪の死亡事故であり、その慰霊と再発防止を誓う鎮魂の行事でもあります。

事故の詳細は以下に転載致しますが、昭和43年「少年自衛隊」の訓練事故と同年内外の情勢は「プラハの春」や「R・ケネディ暗殺」、また「東大安田講堂への機動隊突入」、更には「東京府中市3億円強奪事件」など、騒然とした時代でもありました。

当時の増田国務大臣（防衛庁長官）の国会での報告内容（抜粋）

去る七月二日発生いたしました陸上自衛隊少年工科大学校生徒の訓練事故において、前途ある純真なる少年生徒十三名のとうい犠牲者を出しましたことは、まことに遺憾にたえませんことをここに表明いたします。この事故について、その概要を御説明申し上げます。

少年工科学校三年在学の生徒の一部七十八名は、七月二日午後一時から、同校内において、当日の先任教官田村一尉の指揮のもとに教官高林二尉及び助教四名の指導により、雨中、野外の戦闘各個訓練を実施していたのでありますが、田村一尉は午後二時ころ、臨時に、同校内のため池、通称やすらぎの池を川と見立てて、夜間の渡河動作訓練を行なうことを決心し、午後二時三十分ころ渡河を開始したのであります。

そのときの生徒の服装は、作業衣に弾帯をつけ半長靴をはきM1ライフル銃を背負った姿でいわゆる乙武装であり、隊形は池の西側寄りに南北に展張したロープを境に東側に三区隊の主力、西側に四区隊の主力があり、北側の岸辺に蟻集しておりました。生徒は田村一尉を先頭に、やや蟻集した隊形のまま池の北側から一斉に水に入りました。そして先頭グループが池の中ほどに達したころからおぼれる者が出始め、生徒の相当数が中ほどに差しかかったとき、おぼれる者がふえ、泳ぎに困難を感じて北岸に引き返そうとする者、近くの西岸に泳ぎ着こうとする者、ロープ伝いに岸へたどり着こうとする者等が続出したのでございます。

教官、助教は事態の重大さに驚き、直ちに岸にいた者に溺水者の救助を指示するとともに、みずからも池の中に入り救助活動に全力をあげました。訓練実施部隊を主とするこの初動救助活動により、事故発生後五、六分でおぼれかかった八名をはじめ、水没直前にあった生徒二名が救助され、水没直後の一名が発見されました。その後急を聞いてかけつけた副校長をはじめ学校幹部、教官、生徒等が逐次事故現場に到着し、海上自衛隊横須賀地方隊の水中処分隊員の応援も加え、総勢約五百名をもって救助活動を続行し、午後四時二十五分ころまでにさらに濁水者十二名を逐次発見、これらの者について直ちに医官、職員、生徒による人工呼吸、注射等の応急措置を行なった後、病院に後送してさらに手当を加えたのでありますが、そのかいなくついに生徒十三名が殉職いたしましたのでございます。

(以下略)

54年前の痛ましい出来事は我々の記憶の彼方に消え去ろうとしていますが、現在72年前後の当事者達の記憶は誠に鮮明で有り、6名のOBの方々が遠くは青森からも参列され、猛暑に負けず全校生徒が整列する中、ご一緒に献花、黙祷を捧げられました。

その先輩方は多くを語らず、少年自衛隊3年間の猛訓練に耐え総仕上げの富士野営訓練に向けての事故であり、17-18才の多感な時期に大きな衝撃を受けた事だろうと忖度するしかありませんが、しかしその僅か3週間後の富士野営訓練に於いては13名同期の戦死を乗り越えて、見事な戦果を上げられたものと想像するに難くありません。

安倍元総理の突然の訃報に何だか気分がざわついて落ち着かず、以前もこんな気持ちになった事を思い出したら、昭和45年11月25日の三島由紀夫先生義挙の時と同じでした。

令和4年8月1日  
宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦